

サイエンスライティング

《担当者名》○丸川活司 遠藤輝夫

【概要】

学内外における実習後のレポート作成は、各実習における位置づけや意義を理解するために重要な作業となります。実習は実体験に基づく深い学びが獲得できるといった意義があり、それをレポートとしてまとめ上げることは、将来、卒業論文作成を行なう際のライティングテクニックを付ける為にも重要となります。本講義では学術論文や実際の実習レポートを確認しながら、「導入」「材料と方法」「結果」「考察」の4つのセクションの書き方についての基本を学びます。

【学修目標】

- 1) 実習（実験）レポートの意義について説明できる。
- 2) 実習（実験）レポート、学術論文の基本構成を理解している。
- 2) 臨地実習レポート作成のポイントを理解している。
- 3) 学術論文（卒業論文）作成のポイントを理解している。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス	・実習（実験）レポートの必要性について学ぶ ・学術論文や卒業論文作成に修得すべきことについて学ぶ キーワード：実習レポート、卒業論文	丸川活司
2	実習レポート、学術論文の構成を知る	・実習レポート、学術論文の構成を学ぶ ・Introduction（導入） ・Materials and methods（材料と方法） ・Results（結果） ・Discussion（考察） キーワード：IMRAD形式	遠藤輝夫
3	学内実習（実験）レポートの書き方	・学内実習（実験）レポート実例を用いて読みやすいレポートの構成を学ぶ ・レポートにふさわしい用語や表現方法 ・データ（図表など）の掲載方法 キーワード：実習（実験）レポート	遠藤輝夫
4 5 6	学術論文（卒業論文）の構成と書き方	・学術論文や過去の卒業論文集を用いて学習する ・学術論文や卒業論文の構成と書き方について考える（グループディスカッション） キーワード：学術論文、卒業論文、グループディスカッション	丸川活司
7 8	臨地実習レポートの書き方	・臨地実習レポートの実例を用いて学習する ・臨地実習レポートの書き方について考える（グループディスカッション） ・臨地実習レポート作成ポイントとNG例について学ぶ ・症例や検査結果の考察方法について学ぶ キーワード：臨地実習、グループディスカッション	丸川活司

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

課題レポート：100%

- ・グループワーク後、課題レポートを提出する。

【教科書】

教科書は使用しない。各回に手順書を配布する。

【参考書】

ダメ例から学ぶ 実験レポートをうまくはやく書けるガイドブック・堀一成 他・羊土社
はじめてでも、ふたたびでも、これならできる！ レポート・論文のまとめ方

【備考】

- ・授業資料の配布は、Google classroomを利用する
- ・授業にはPCを持参すること。事前に充電しておくこと。

【学修の準備】

各回の終了後に復習（240分）を行うこと。

【実務経験】

丸川活司（臨床検査技師）、遠藤輝夫（臨床検査技師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、医学・医療における各専門領域の重要性やレポートのまとめ方、論文作成における実践方法に関して講義する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している